

施策目標個票

(国土交通省4-⑰)

施策目標	自動車の安全性を高める	
施策目標の概要及び達成すべき目標	交通事故死者数を削減するため、安全な自動車の普及を達成すべき目標として、自動車の安全基準の拡充・強化、先進安全自動車(ASV)の開発・実用化・普及を促進する。	
評価結果	目標達成度合いの測定結果	(各行政機関共通区分) ②目標達成 (判断根拠) 業績指標52.53とともに、過去の実績値によるトレンドを延長すると、目標年度に目標値を達成すると見込まれ、順調であるため。
	施策の分析	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車の技術・基準の国際標準化等の推進 日本主導の下、国際的な車両安全基準の策定を推進しており、ペダル踏み間違い時加速抑制装置に係る基準策定に向けた議論を開始したほか、対自転車衝突被害軽減ブレーキは国際基準発効にあわせ、令和3年9月に国内基準へ導入し、令和6年7月より順次義務付け。 ・先進安全自動車(ASV)プロジェクトの推進 R3年度からの第7期ASV推進検討会において、産学官の連携により、両装置の対応場面の拡大等を議論し、更なる開発を促進。 ・高齢運転者等による事故防止対策の推進 衝突被害軽減ブレーキ、ペダル踏み間違い時加速抑制装置等を搭載した安全運転サポート車(通称:サポカー)について、他省庁・関係団体等と連携し、普及啓発活動を実施。 サポカー搭載装置について性能認定を実施し、一定以上の性能を満たす認定車種一覧をHP上で公開することで開発を促進。 等の施策により、着実に事故防止に資する安全装置の搭載率が向上している。
	次期目標等への反映の方向性	装置の開発・普及の段階に応じて、搭載拡大を阻害する要素等について継続的に分析し、適切な施策を講じる。

業績指標	(52)乗用車のペダル踏み間違い時加速抑制装置の装着率	初期値	実績値				評価	目標値	
		R2年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		R4年度	R5年度
		83.6%	69.6%	76.4	83.6%	93.1%		調査中	95.0%
	年度ごとの目標値	/	-	-	-	87.4%	91.2%	A	
業績指標	(53)乗用車の対自転車衝突被害軽減ブレーキの装着率*	初期値	実績値				評価	目標値	
		R2年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		R4年度	R6年度
		12.7%	-	-	12.7%	47.9%		調査中	60.0%
	年度ごとの目標値	/	-	-	-	24.5%	36.4%	A	
参考指標	(74)ワンストップサービス対象の継続検査のワンストップサービス利用率	初期値	実績値				評価	目標値	
		R1年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		R4年度	R7年度
		33%	/	/	44%	51%		57%	90%
	年度ごとの目標値	/	/	/	90%	90%	90%	/	
	(75)中間登録(変更登録・移転登録・抹消登録)のワンストップサービス利用率	初期値	実績値				評価	目標値	
		R1年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		R4年度	R7年度
		1.1%	/	/	1.2%	2.2%		2.5%	20%
	年度ごとの目標値	/	/	/	20%	20%	20%	/	
(76)自動車登録検査業務電子情報処理システム被災時訓練における事前設定課題の達成度	初期値	実績値				評価	目標値		
	R2年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		R4年度	R5年度	
	9%	/	/	/	86%		68%	100%	
年度ごとの目標値	/	/	/	/	100%	100%	/		

施策の予算額・執行額等 【参考】	区分		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度要求額
	予算の 状況 (百万円)	当初予算(a)	8,672	7,183	4,650	4,254	
		補正予算(b)	0	0	0		
		前年度繰越等(c)	1,329	0	36		
		合計(a+b+c)	10,001	7,183	4,686	4,254	
			<0>	<0>	<0>	<0>	
	執行額(百万円)		9,893	7,084			
	翌年度繰越額(百万円)		0	36			
不用額(百万円)		107	63				

学識経験を有する者の知見の活用	国土交通省政策評価会(令和5年6月26日)
-----------------	-----------------------

担当部局名	技術・環境政策課 車両基準・国際課	作成責任者名	課長 猪股 博之 課長 杉崎 友信	政策評価実施時期	令和5年8月
-------	----------------------	--------	----------------------	----------	--------

業績指標 5 2

乗用車のペダル踏み間違い時加速抑制装置の装着率

評価

A	目標値：95.0%(令和5年) 実績値：93.1%(令和3年) 初期値：83.6%(令和2年)
---	---

(指標の定義)

1年間に生産される乗用車のうち、ペダル踏み間違い時加速抑制装置が装着される車両台数の割合

(目標設定の考え方・根拠)

多数の交通参加者を巻き込む事故の原因となり得るペダルの踏み間違いの事故を防止する本装置については、最大限装着台数を増やしていく必要があるが、装着率が向上するにつれ頭打ちとなる可能性等を勘案して、当面は、令和5年までに1年間に生産される乗用車のうち、当該装置が装着される車両台数の割合について、95%が達成されることを目標とする。

(外部要因)

資源価格の高騰

(他の関係主体)

(重要政策)

【施政方針】

「未就学児等及び高齢運転者の交通安全緊急対策」(令和元年6月18日)

第32回「未来投資会議」(令和元年10月29日)総理発言(抄)「本日は、成長戦略の策定に向けて、各論を議論いたしました。まず、Society5.0時代の高齢運転者による交通事故対策です。第4次産業革命の新たな技術の進展を実装し、対策を進めていきます。このため、対歩行者の自動ブレーキの装備やペダルの踏み間違い時の加速抑制装置を装備する車を普及する必要があります。限定免許制度の導入も視野に入れつつ、年末までにサボカーの市場導入を加速化する措置を検討します。梶山経済産業大臣、赤羽国土交通大臣、武田国家公安委員長は、具体的な検討を進めていただくようお願いを申し上げます。」

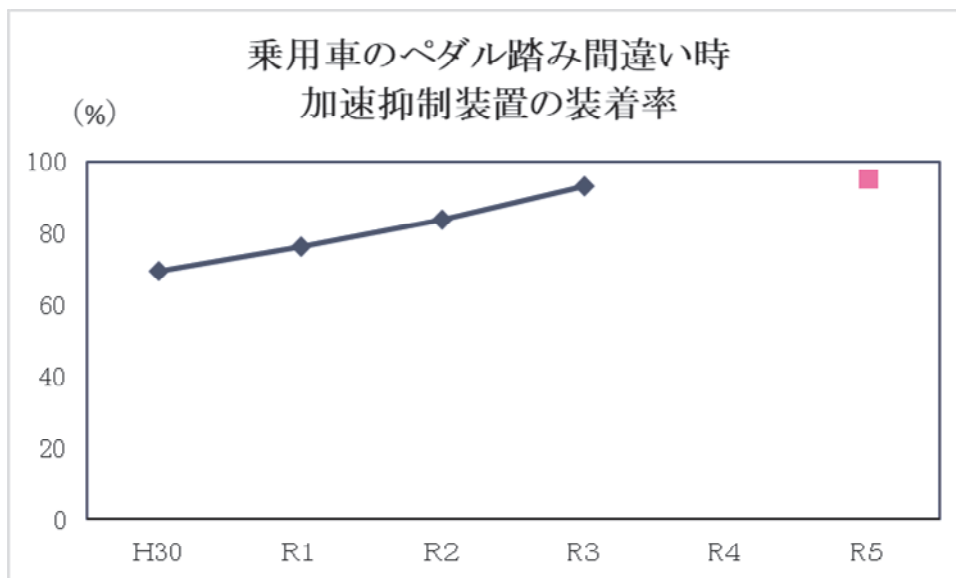
【閣議決定】

第11次交通安全基本計画(令和3年3月29日)

【閣決(重点)】

【その他】

過去の実績値(%)				(暦年)
H30	R1	R2	R3	R4
69.6	76.4	83.6	93.1	調査中



主な事務事業等の概要

- ・ 自動車の技術・基準の国際標準化等の推進 予算額：380 百万（～令和 4 年度）

グローバル化が進展する国際自動車市場において、技術力を有する我が国の自動車メーカー等が活躍できる環境を整備するため、日本の技術・基準の国際標準化等を推進。国内導入（義務付け）による技術開発・普及拡大も見込まれる。

- ・ 先進安全自動車（ASV）プロジェクトの推進 予算額：119 百万（～令和 4 年度）

産学官の連携により車両の先進安全技術の実用化・開発・普及を推進。

- ・ 高齢運転者等による事故防止対策の推進 予算額：36 百万（令和 4 年度）

衝突被害軽減ブレーキ、ペダル踏み間違い急加速抑制装置等の安全装置を搭載した安全運転サポート車（通称：サポカー）を普及促進。

測定・評価結果

目標の達成状況に関する分析

（指標の動向）

R2 年度当初は装着率 83.6%（総生産台数 404 万台中 338 万台）であったが、R3 年時点で 93.1%（総生産台数 336 万台中 313 万台）であり、90%の大台を達成したことからさらに頭打ちの傾向が高まる可能性はあるものの、過去の実績値によるトレンドを延長すると、目標年度に目標値を達成すると見込まれ、順調である。

（事務事業等の実施状況）

- ・ 自動車の技術・基準の国際標準化等の推進

令和 4 年度に日本主導で国際基準策定の議論を開始し、本装置の開発・搭載を促進。

- ・ 先進安全自動車（ASV）プロジェクトの推進

R3 年度からの第 7 期 ASV 推進検討会において、産学官の連携により、ペダル踏み間違い時急発進抑制装置の対応場面の拡大等を議論し、本装置の開発を促進。

- ・ 高齢運転者等による事故防止対策の推進

ペダル踏み間違い時急加速抑制装置等の安全技術を搭載した安全運転サポート車（通称：サポカー）について、他省庁、関係団体等と連携し、動画作成・公開等の普及啓発活動を実施。

当装置について性能認定を実施し、一定以上の機能を満たす性能認定装置の一覧を HP にて公開することで開発を促進。

課題の特定と今後の取組みの方向性

過去の実績値によるトレンドを延長すると、目標年度に目標値を達成すると見込まれるため A と評価した。業績指標は順調に推移しているが、今後より頭打ちの傾向が高まる可能性を見据え、更に次世代の装置を推進するような取組みを進める。

担当課等（担当課長名等）

担当課： 技術・環境政策課 課長 猪股 博之

関係課： 車両基準・国際課 課長 杉崎 友信

業績指標 5 3

乗用車の対自転車衝突被害軽減ブレーキの装着率

評価

A	目標値：60.0%(令和6年) 実績値：47.9%(令和3年) 初期値：12.7%(令和2年)
---	---

(指標の定義)

1年間に生産される乗用車のうち、自転車に対応した被害軽減ブレーキが装着される車両台数の割合

(目標設定の考え方・根拠)

交通弱者が被害者となる事故が多い本国において、本装置はまだ普及率が高くない装置ながら、装着率の向上を強力に推進すべきであることから、令和6年度までには、1年間に生産される乗用車のうち、当該装置が装着される車両台数の割合について、60%が達成されることを目標とする。

(外部要因)

資源価格の高騰

(他の関係主体)

(重要政策)

【施政方針】

「未就学児等及び高齢運転者の交通安全緊急対策」(令和元年6月18日)

第32回「未来投資会議」(令和元年10月29日)総理発言(抄)「本日は、成長戦略の策定に向けて、各論を議論いたしました。まず、Society5.0時代の高齢運転者による交通事故対策です。第4次産業革命の新たな技術の進展を実装し、対策を進めていきます。このため、対歩行者の自動ブレーキの装備やペダルの踏み間違い時の加速抑制装置を装備する車を普及する必要があります。限定免許制度の導入も視野に入れつつ、年末までにサボカーの市場導入を加速化する措置を検討します。梶山経済産業大臣、赤羽国土交通大臣、武田国家公安委員長は、具体的な検討を進めていただくようお願いを申し上げます。」

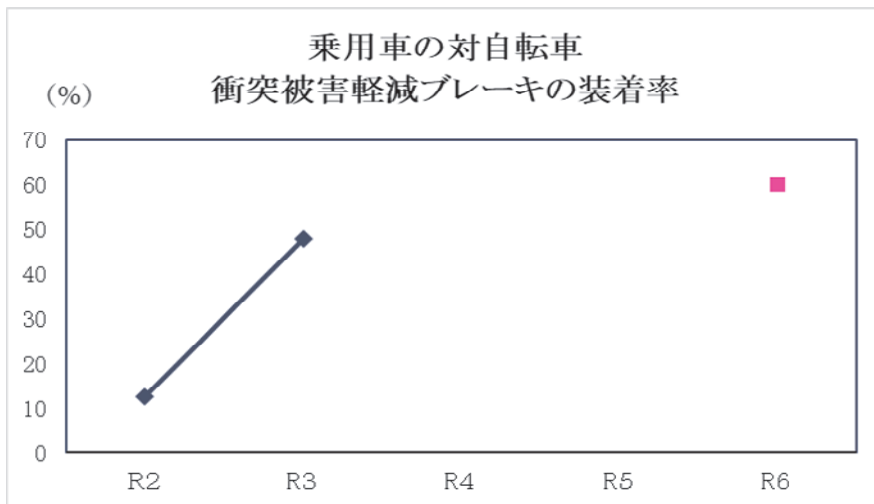
【閣議決定】

第11次交通安全基本計画(令和3年3月29日)

【閣決(重点)】

【その他】

過去の実績値(%)				(歴年)
H30	R1	R2	R3	R4
—	—	12.7	47.9	調査中



主な事務事業等の概要

・自動車の技術・基準の国際標準化等の推進 予算額：380百万(～令和4年度)

グローバル化が進展する国際自動車市場において、技術力を有する我が国の自動車メーカー等が活躍できる環境を

整備するため、日本の技術・基準の国際標準化等を推進。国内導入（義務付け）による技術開発・普及拡大も見込まれる。

・先進安全自動車（ASV）プロジェクトの推進 予算額：119 百万（～令和 4 年度）

産学官の連携により車両の先進安全技術の実用化・開発・普及を推進。

・高齢運転者等による事故防止対策の推進 予算額：36 百万（令和 4 年度）

衝突被害軽減ブレーキ、ペダル踏み間違い急加速抑制装置等の安全装置を搭載した安全運転サポート車（通称：サポカー）を普及促進。

測定・評価結果

目標の達成状況に関する分析

（指標の動向）

R2 年度当初は装着率 12.7%（総生産台数 404 万台中 51 万台）であったが、R3 年時点で 47.9%（総生産台数 336 万台中 161 万台）であり、過去の実績値によるトレンドを延長すると、目標年度に目標値を達成すると見込まれ、順調である。

（事務事業等の実施状況）

・自動車の技術・基準の国際標準化等の推進

令和 3 年に日本主導で国際基準を策定。同基準を国内基準に導入し、令和 6 年 7 月以降の新型車から対自転車衝突被害軽減ブレーキを順次搭載義務付け。

・先進安全自動車（ASV）プロジェクトの推進

R3 年度からの第 7 期 ASV 推進検討会において、産学官の連携により、衝突被害軽減ブレーキの対応場面の拡大等を議論し、本装置の開発を促進。

・高齢運転者等による事故防止対策の推進

対自転車衝突被害軽減ブレーキ等の安全技術を搭載した安全運転サポート車（通称：サポカー）について、他省庁、関係団体等と連携し、動画作成・公開等の普及啓発活動を実施。

当装置について性能認定を実施し、一定以上の機能を満たす認定車種一覧を HP にて公開することで開発を促進。

課題の特定と今後の取組みの方向性

業績指標は順調に推移しており、過去の実績値によるトレンドを延長すると、目標年度に目標値を達成すると見込まれるため、評価を A とした。令和 6 年 7 月以降の新型車から搭載義務付けを行い、に今後もより一層の搭載率向上が見込まれる。

担当課等（担当課長名等）

担当課： 技術・環境政策課 課長 猪股 博之

関係課： 車両基準・国際課 課長 杉崎 友信